



録画配信 

IT人材の育成

つぶやき
ITを日本を支える産業に育てたい…

戸田の会
さかい いく ろう
酒井 郁郎 議員

Q 小中学生からのIT人材育成を

A 先行事例を研究したい

議員 ITエンジニアの人材不足が深刻であり、日本にとっても喫緊の課題である。また、将来性、給与水準の面で、既に医師、弁護士以上に有望な仕事となっている。学童期に初歩的なITスキルを覚えれば、職にあぶれることは無く、また、高校・大学などへの進学時に高額のアパートに困らず、学費のために夜のバイトに就くなどの必要もなくなる。これらのことから、世界的に、若年者向けのIT人材育成のための拠点を作る例が増えている。本市においても無料でITスキルを習得できる拠点を整備し、IT人材育成や、中高年が社会のデジタル化に取り残さないための講座を実施しては。

環境経済部長 先行事例の状況把握に努めていく。



アルメニアの「TUMOセンター」。世界で先進的なIT人材育成の新設が進んでいる
(ツェモセンター <https://tuomo.org/>)

その他の質問

Q 議員を務める中で、市職員から匿名でパワハラ、不適切な事務による損失、サボタージュなどの情報提供を受けることがある。情報が上がりやすい風通しの良い組織づくりに加え、匿名通報窓口として調査権限のある第三者機関を設置し、必要に応じ公表すべき。

A 通報は実名のみ受け付けている。匿名では通報者の保護やフィードバックが難しい。



録画配信 

高齢者福祉サービス

つぶやき
支払い方法は多くの選択肢があった方がよい

立憲民主とだ
こ がね ぎわ まさし
小金澤 優 議員

Q 配食サービスなどの支払い方法に選択肢を

A 今後の契約時において検討していく

議員 配食および紙おむつなどの現物支給サービスの概要と利用方法について伺う。

健康福祉部長 高齢者食事サービス事業は、栄養バランスの取れた食事の配達とともに、高齢者の安否を確認する。配達は日・祝日を除く日の昼食で、1食当たり400円の自己負担となっている。おむつ等支給事業については高齢者に紙おむつ、紙パンツおよび尿取りパッドを支給するもので、1か月当たり5パックまでで、1パック当たり150円から500円の自己負担となっている。食事サービスは配食業者から事前にチケットを購入し、宅配時にそのチケットと交換で食事を受け取る。

議員 どのような支払い方法があるのか。チケット制になっている理由は。

健康福祉部長 購入時に現金での支払いが、金融機関からの振込も可能となっている。チケットは、食事が適切に受け渡されたことおよび請求額の根拠を確認するものとして用いている。

議員 認知症の方などチケットの紛失やお金のやり取りが難しい方もいる。別居している家族が支払うことも考えて、コンビニ払いや口座振替など、支払い方法の拡充を強く要望する。

1 食事サービス

買い物及び調理等が行えず食事の確保が困難な高齢者に対して、昼食を提供し、安否確認を行います。

利用できる方

- 市内に住所を有し、住民基本台帳法による記録を受けていること。
 - 65歳以上のひとり暮らしの方、又は65歳以上の方をきむ60歳以上の方で構成されている世帯員であること。
 - 在宅で生活し、身体的又は精神的理由で食事をとれないことが常態となっていること。
- ※以上の方が食事介助を必要とするときは、介助者も利用できます。

利用方法

- ① 市に申請し、決定されると、市が配食業者に開始の連絡をします。
- ② 利用者が事前に食事券を配食業者から購入します。
- ③ 配達された弁当と引き換えに券を渡します。

利用しやすい配食サービスを



録画配信 

不登校対策

つぶやき
戦火、貧困、過度の競争、子供達を守って！

日本共産党戸田市議団
はな い のぶ こ
花井 伸子 議員

Q 誰一人取り残されない教育の充実に

A 密に連携し教育相談体制の充実に努める

議員 2022年度文部科学省の長期欠席（不登校）等の調査結果は「過去最多」の人数を示し看過できない。本市不登校児童・生徒の現状と、その原因・問題をどう捉えているか。

教育部長 本市の状況においても同様に小中学校とも増加傾向にある。原因は友人関係や学業不振、進路の悩みなど複雑多岐にわたる。

議員 文科省の調査において「最初に行きづらいつと感じたきっかけ」の問いに「友達のこと」が約50%、「先生のこと」が約30%となっている。結果を学校・教職員間で共有し、さらなる支援充実に求める。また、誰一人取り残されない教育の実現を掲げた「戸田型オルタナティブ・プラン」の現状と実績は。

教育部長 小学校内に設置した「ぱれっとルーム」は令和5年2月時点で101名が利用、子供たちは「楽しい」と答え、学校・教職員、保護者の支援につながっている。県立戸田翔陽高校内に設置した不登校生徒支援教室「いっば」は生徒の自己肯定感を高め、進むべき航路を示す灯台となっている。

議員 場の周知や実績などの情報が不十分。体制強化も求められている。

教育部長 密に連携し教育相談体制の充実に努める。



戸田型オルタナティブ・プラン

中学生 in 議会 社会体験チャレンジ



地域の中でさまざまな社会体験活動とおして、学校では得られない経験を積むことで、豊かな感性や社会性、自律心を養うことなどを目的としている中学生社会体験チャレンジ事業として、筈目中学校の生徒3名が本市議会の定例会中に職場体験を行いました。



会議の打ち合わせ、会場設営、会議中の発言、傍聴受付、議場内での写真撮影、会議録作成補助、図書室整理など、議会運営に係るさまざまな業務をこなしていただきました。

3日間ありがとうございました！



職場体験をした感想

近藤由都さん：今回の社会体験学習を通して議会に参加したり、一般質問の撮影をすることなど普段の学校生活では体験できないことをできたのでとてもいい経験になりました。



相澤瑛太さん：議会に出席して意見を言うなどの貴重な経験ができ、とても勉強になりました。実際に市役所で働いてみたことで、これまでよりも市役所のこと身近に感じられるようになりました。



高橋優斗さん：議会出席の際にはとても緊張しましたが、こちらに話題を振ってくれてとても話やすく、うまく話し合いに参加できてよかったです。

